

新型コロナウイルス影響下での推進について

新型コロナウイルスの影響により依然として水産物消費の低迷が続いており、各浜では回復の兆しが見えない厳しい状況にあるかと思えます。

第一四半期は養殖共済の契約が集中しています。コロナ禍において、魚類養殖では消費の低迷などにより出荷が困難な状況が続いて売り上げが減少する一方、例年は2年魚として出荷していた魚を3年魚へ持ち越さざるを得なくなり餌代等の経費が増加するなど、養殖経営は更に厳しさを増しています。こうした背景から、高い年級の養殖魚の契約が増加したほか、新規契約によりたいの契約が伸び、5月末時点の養殖共済の共済金額は1,236億円（前年比120%、207億円の増）となりました。6月分も合わせた令和2年度の養殖共済の引受は過去最高の実績となる見込みです。

漁業共済団体は、今般のコロナ禍において「ぎょさい」と「積立ぷらす」が漁業経営の安定に果たす役割を改めて認識しました。契約者の皆様が新型コロナウイルスの影響下においても、経営を継続するために「ぎょさい」と「積立ぷらす」を役立てていただくことを切に願い、普及推進に努めます。大変な状況ではありますが、行政庁と共済団体で連携をとりながら、一丸となって加入推進に取り組んで参りますので、関係者の皆様のご支援・ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

令和2年度の加入実績（5月末累計）

（単位：百万円）

区 分	共済金額			漁業者積立額		
	今年度	前年度	前年	今年度	前年度	前年
漁 獲 共 済	56,005	51,108	110%	3,278	2,866	114%
養 殖 共 済	123,586	102,911	120%	5,356	4,118	130%
特 定 養 殖 共 済	1,641	1,633	101%	61	59	102%
漁 業 施 設 共 済	5,901	5,227	113%			
地 域 共 済	1,261	1,153	109%			
合 計	188,394	162,032	116%	8,694	7,044	123%